

第3回次世代育成協議会・部会テーマ「困難を抱えた若者の早期発見と対応」

1 第三期新宿区次世代育成協議会・部会「平成22年度 部会活動のまとめ」地域における若者への支援策をさぐるから

早期発見・早期対応に向けた取組みの実施

<現状への対応>

●年齢とともに、課題が長期化し深刻化することを防ぐために、例えば、学校と地域が協力して、早期発見・早期対応の体制を作ることが考えられる。また、子どもから若者への成長時期や発達段階ごとに、各機関のつなぎをより丁寧にし、早期からの支援のつなぎを望みたい。

<予防的な対応策>

●各種の調査において、困難を抱える若者は、他者とのコミュニケーションが苦手であることが指摘されている。学校や児童館などにおける、コミュニケーション能力の向上支援や「生きる力」をはぐくむことも有効な予防策と考える。

2 第1回部会での意見

(1) 支援機関への「つなぎ」

若者のコミュニケーション能力向上支援を行っている場はある。若者と支援の場をいかに結びつけるか。

(2) 話す機会

突然、人とコミュニケーションが取れなくなった訳ではないのではないかな。小さい頃から、“無駄話”でもいいから、話す機会を作って育てる必要があるのではないかな。

(3) 話す場

一人っ子が増え、共働きの保護者も増えている。家の中で、子どもが一人で過ごす状況が増えているのではないかな。子どもは、もっと話したがっている。

3 第2回部会での意見

(1) 家庭への支援

生活保護家庭で育った若者に仕事をしようと呼んでも、意欲的に働くことを見ていないため、仕事をすることに、全く興味を持たないという報告があった。そのため、家庭への支援も、必要だと思う。

(2) 就労・生きることの意味

若者支援は、雇用につながった数に目が行きがちだが、数だけではなく、もっと人の問題があり、そこへの対応が必要な気がする。

また、教育でも、学業の成績が中心になり、人が生きていくうえで就労することの意味や、充実感を覚えるということが不足しているのではないかな。学校が他の機関と今まで以上に連携すると、何か少し解決するのではないかなとも思う。

(3) コミュニケーション

部会において、「コミュニケーション」が常に議論されている。これからの若者支援のあり方、関係機関のあり方を論議していくには、「コミュニケーション」を念頭に置く必要がある。